

## 第 75 回日本公衆衛生学会総会 10 月 26 日～

<http://www.c-linkage.co.jp/jsph75/>

演題名：活動意欲向上に至った統合失調症患者について・タッチパネル式のソフトウェアを用いた結果

「抄録本文」

### 目的

精神患者へのリハビリテーションにおいて意欲の向上，活動性向上を目的としたトレーニングを模索している．今回，精神疾患患者に対しタッチパネル式のソフトウェアである「脳ぼち」(株式会社ソフトアップJ)を使用した．ソフトウェアを使用することでの効果を身体所見，データを基に検討することとした．

### 対象・方法

対象は寝たきりの状態の統合失調症の女性であり，すべての動作において全介助を要する症例であった．精神症状としては意思の疎通は可能であるが突然奇声をあげることがある．今回使用したソフトウェアは，計算や色の識別，短期記憶能力を継時的に実施，保存可能な「脳ぼち」を使用した．頻度は週 2 回，重田(関西サナトリウム：理学療法士)が本氏への理学療法時に実施することとし，期間は 2 か月間実施した．実施時間は評価時に患者の疲労感を訴えるまでの時間とした．評価方法については症例の意欲変化，活動性について佐々木・重田が独自の評価表を作成し，その評価を実施した．

### 結果

評価表の結果としては初回 17 点(意欲 7 点活動性 10 点)，最終 22.5 点(意欲 10 点活動性 12.5 点)となり，意欲と活動性ともに向上を認めた．日常生活においても自発性を認めなかったが，10 日目より徐々に日中車椅子にのり身体リハや作業療法に積極的に参加したりできるようになってきた．

### 考察

「脳ぼち」という治療媒体を利用することによって，意欲，活動性の向上やコミュニケーションの中で称賛することが多くなることでより患者の高揚感なども生まれる．そのことによって活動意欲が向上していくのではないかと考える．

### 結論

活動意欲そのものを引き出すことはリハビリテーションにとっても重要である．そのため今回のように寝たきりの患者に対しては，心身の総合的なリハビリテーションのアプローチの導入部分として，こうした媒体を利用としたアプローチ方法を取り込み実践していくことで離床や，モチベーションの向上となることから生活の質の向上につながられるのではないかと考えられる．